



令和6年2月7日、東京メトロ丸の内線・荻窪駅の連絡通路で開催された「インクルージョンアート展」。社会福祉法人いたるセンターからは、阿佐谷福祉工房と目黒本町福祉工房のご利用者様の作品が展覧されました。

平成27年の開設以来、イタル成城・生活介護事業部では、アート活動に注力し、ご利用者様の日中活動を豊かなものにしてきました。施設公開や世田谷美術館での展覧会、オンライン美術館などの取り組みから、職員の努力や工夫もあり、アート作品を使用した自主生産品も多く開発され、その売り上げの一部は、ご利用者様の工賃に還元されています。アート推進プロジェクトは、こうした活動を横断的に捉え、施設や事業部を超えたアート活動を推進できないか、という思いからスタートしました。

令和5年8月のキックオフ・ミーティングから、法人のさまざまな施設・事業部のメンバーが参加し、その第一弾の試みとして企画したのが、インクルージョン実行委員会による「東京メトロ丸の内線荻窪駅・インクルージョンアート展」でした。当委員会は、「心のバリアフリー」を普及し成熟した地域共生社会の推進に努めることを目的とし、障害者の社会参加や就

立ち上げからわずかな期間で、こうした評価をいただいたことは、イタル成城をはじめ、法人全体のアート活動に対する取り組みへの評価と捉え、今後の活動についても、ご利用者様と職員の二人三脚で推進していきたいと思えます。

令和6年2月7日から行われた「荻窪駅インクルージョンアート展」には、阿佐谷福祉工房および目黒本町福祉工房のアート作品を出展したことから、その取り組みが高く評価され、厚生労働大臣賞をいただくことができました。

【お詫び】令和6年3月9日、羽田空港国際線ターミナルにて開催された「インクルージョンアート展」において、主催者側の不備により、4日間開催予定が初日のみに変更になり、またその連絡遅延のため、観覧に訪れた皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。



インクルージョン実行委員会の南北ちとせ委員長より授与された「厚生労働大臣賞」の賞状を受け取る谷山勝崇理事長

いたる通信

ITARU CENTER 95

目次 contents

- 01 令和5年度 インクルージョンフェスティバル インクルージョンアート活動において、厚生労働大臣賞を授与
- 02 事業所通信 事業部からの情報発信
- 03 *目黒本町福祉工房 *イタル成城 *阿佐谷福祉工房 *あけぼの作業所 *包括ケアセンター・グループホーム *サポートウイズ *法人本部 (新入職員紹介)
- 04 事業所通信 事業部からの情報発信
 - *パン工房プクプク
 - *ピヨピヨおうちえん(保育)
 - *すまいる高井戸
 - *クローバー・マルコ
 - *SDGs推進室
 QRコードのご案内
 いたるセンターホームページ
 いたるセンターインスタグラム
 いたるセンターフェイスブック

令和5年度 インクルージョンフェスティバル インクルージョンアート活動において、厚生労働大臣賞を授与。

社会福祉法人いたるセンターアート推進プロジェクト

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会の設立の趣旨でありです。
年会費 1,000円(何回でも可)
郵便振り込み 00110712892
口座 339217346 事務局 山本まで
お問い合わせ先



事業部からの情報発信・事業所通信

■パン工房プクプク 統括リーダー 池田史暢

新年度も始まり原材料・燃料等の高騰が今後も絶え間なく続くなか値上げも含め非常に厳しい年度になりそうです。一方で、杉並・中野と2区にわたり区立保育園全園へのパン供給は安定的に行われており、今後もこれまで以上に安定した品質・安全面で絶対的な品質を揺るぎないものとして引き続き取り組んでいきたいと思えます。店舗は6月には15年の節目になり、店舗しかない魅力を強調していきたいと考えています。外販は新規事業所の獲得を念頭に置きながら阿佐ヶ谷にある「にぎやかな風」の活用も含め広範囲の地域に根差していくことを約束したいと思います。



スタッフ一同引き続きまい進していきますので変わらぬご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

■すまいる高井戸 センター長 阿久津庄司

すまいる高井戸は、今年度の事業目標の1番に「すまいる高井戸を求めるすべてのご利用者の拠り所として、多種多様な困りごとに真摯に向き合い、誠意をもって対応します」と掲げました。それに先立って、昨年度末に行われた杉並区の履行評価にて、すまいる高井戸は非常に高い評価をいただきました。

日常業務を仕様書通りに遂行できたことに加えて、昨年度実施された利用者アンケートにて、すまいる高井戸は55名のご利用者から回答をいただき、内7割強の方から「すまいる高井戸に満足している」という回答をいただいたことで、評価に加点をいただいた結果です。まさに、事業目標の1に掲げたことを実践している証ではないかと思えます。

今年度は、長く事業を支えてくれた職員の退職等に伴い、新たな職員体制で臨む年になりますが、事業目標の1を常に念頭において、スタッフ一丸となって事業に取り組んでまいります。

■クローバー・マルコ 統括リーダー 加藤大貴

昨年度は、水道光熱費や食材費の高騰がありましたが、夕食の発注会社をセブンイレブン弁当からジョイント会社へ変更し、なんとかやりくりを行い、活動を行ってきました。今年度は、施設環境の老朽化が目立ってきたため、施設環境を整え、ご利用者の方々にとって過ごしやすい環境を提供出来るように、行ってまいります。また、今年度は第3者評価の実施を行う予定となり、ご利用者の方々にもご協力をお願いすることがあるかと思えますので、宜しくお願い致します。

■ピヨピヨおうちえん マネジャー 大上茂樹

「ピヨピヨおうちえん」と「ピヨピヨおうちえん荻窪駅前」はいずれも2歳児までの保育園ですので、3歳児になるとみんな新しい保育園に入園して行きます。

今年は桜の開花が遅く、卒園の時期が近づいているのを忘れそうでしたが、やはりその時期はやってきました。友だち同士や先生との会話も上手になって、毎日楽しく保育活動を行っている2歳児が卒園していなくなるのは、ちょっとさみしいですが、4月になると新しい子ども達が入園してまた、にぎやかになるのは楽しみでもあります。

「大きくなったね会」「卒園お祝い会」とそれぞれの園で名前は違いますが、子どもたちの成長を祝う会を行いました。

写真は「ピヨピヨおうちえん荻窪駅前」の玄関の飾りです。この飾りを見ると、子ども達と保育園が新しい年を迎える喜びを感じます。



いたる広報委員

発行責任者＝谷山 勝崇
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2024年4月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと

QRコードとSNSアイコン:

- ホームページ
- Instagram
- フェイスブック



事業部からの情報発信・事業所通信



■目黒本町福祉工房

施設長 池田佳津男

写真は次年度(巳年)土鈴のサンプルです



目黒本町福祉工房では毎年『千支土鈴』を製造販売しています。大手ホテルグループ様や目黒区、その他個人の方々にも購入頂いており、目黒本町福祉工房の大きな工賃原資となっています。千支土鈴は厄除けの意味もあり、縁起物として親しまれています。土鈴を鳴らすことで、その音色が厄を払うと言われてます。

来年は蛇年です。蛇が黄金の巳として黄金の小判に刻されることで、富や幸福、成功などを表すと言われてるそうです。最需要期は年末ですが、既にデザインも完成し順次製造を進めています。皆さまも縁起物である千支土鈴をご家庭に一つ置かれては如何でしょうか?ご用命の際は目黒本町福祉工房までご連絡願います。

■イタル成城

前施設長 五木田義之



パンルのエレベータホールに鎮座し、日常を見守ってくれていた胡蝶蘭にピンク色の綺麗な花が咲きました。2017年のいたるセンター50周年記念式典の際に頂いたものです。私が異動してきた約3年前から、ずっと無表情のまま緑一色だったそれは、どんな心変わりをしたのか、突然開花し、咲き誇るように今その存在を示しています。胡蝶蘭の寿命は調べてみると上手に育てれば(気温は15度以上、直射日光を避け、水は与えすぎないこと)50年だそうです。「長く生きるために、葉や根を伸ばして必要な「水・光・栄養」をとったり、逆に葉や根を枯らせて生き延びようとする。そのため、胡蝶蘭は自分の株を最優先に考え、生きやすい環境であれば成長を続けます。」と続きます。どこか人間に似ているなと思うと同時に、目に見えるもので判断する愚かさや、目に見えないものの中に豊かさがあることを教えてくれているような気もします。この3年間大変お世話になりました。爛々と咲く花に背中を押されたように感じています。私はこの4月に異動することになりました。置かれた場所で咲けるよう努力して参ります。これまでありがとうございました。今後ともイタル成城のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏

昨年12月8日土曜日にクリスマス会を開催いたしました。ご利用者による「クリスマスカード作り」ではカラーペンやシールを使って各々の好みに合ったクリスマスカードを作っていました。「フォトスポット撮影」では塗り絵や貼り絵を使ってクリスマスのフォトスポットを作成し、サンタと一緒に撮影を行い、プレゼントを貰いました。48名のご利用者が参加され、楽しいひとときを過ごしました。



1月11日には新年会を開催し、40歳になられた3名と、永年勤続(15年、20年、30年、50年)8名のご利用者ご家族をお招きしてお祝いをして頂きました。節目となる年に様々な思いが込められ、和やかな会となりました。

今年度も皆様と一緒に楽しいイベントを開催させていただきたく、よろしくお願いいたします。



■さんまるしえ

店長 表尚哉



さんまるしえでは3月より、イタル成城で制作されたアート作品を店内に展示しています。鮮やかな色彩や個性的なタッチはとて目を惹き、映え、店内を華やかにしてくれています。お客様の視線も上向き、お店に奥行きと立体感が生まれました。

常時10数点を季節ごとに少しずつ入れ替え、1年を一つのクールとして長いスパンで取り組む考えです。

こうした事で障害者アートの認知を広げるとともに、いたるセンター内の横の繋がりを作っていければと考えています。

■あけぼの作業所

施設長 山田弘子

クッキンググループでは、レトルトカレーなどの原料となるスパイスの製造を行っています。2023年度はたべっこ動物ランドで販売されたカレーのスパイス、競馬騎手の武豊さん監修のレトルトカレーのスパイスの製造を行いました。ホールスパイスを焙煎し、粉碎する作業で、作業室はスパイスの香りが充満しています。



■包括ケアセンター・グループホーム

マネージャー 水谷泰三

グループホーム事業部は、長い歴史の中でホームの老朽化がすすみ、施設の建て替え・移転を現在検討しています。

入居者様が、安心安全でその方らしい地域での生活を送れるようにハード面・ソフト面の整備を図りたいと思います。

そのために、グループホームの移転を契機に施設の差別化を検討し、日中の活動場所等を考慮しながら、障害特性・入居者の相性を加味した移転・ホームづくりを進めたいと考えております。また、ホームの拠点化を図り、重度施設の近隣に軽度のホームを作り重度施設を中心に地域性を活かした運営を図りたいと思います。

今現在、グループホーム事業部では、移転場所を探しております。グループホームに適した物件がありましたら、お知らせいただきたくよろしくお願いいたします。



■サポートウイズ

マネージャー 林平

2023年12月からサポートウイズに配属となりました林平(はやしたいら)です。異業種からの転職でしたので不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。さてこの度2022年6月に創設された「いたるクリニック」ですが、2024年2月をもちまして運営を終了いたしました。短い期間でしたが、少しでもお役にたてたなら幸いです。

サポートウイズは、訪問看護・居宅介護支援・移動支援・相談室の4事業所となりましたが、各事業所とも職員やスタッフを増やし、多くの利用者様に喜んでいただけるサービスを提供していきたいと思っております。また、居宅介護支援におきましては、4月17日に区役所でセミナーを行うなど、積極的に地域でのコミュニケーションを図って参ります。今後ともよろしく申し上げます。



ご期待ください



2024年度(令和6年度)の新入職員4名は、4月1日から4月12日まで、代々木・国立オリンピック記念青少年総合センターにて、集合研修を行っています。法人の理念・歴史にはじまり、就業規則解説、ビジネスマナー、障害者支援の講義と演習、ビジネスゲームを通じたコミュニケーション、自己覚知など、盛り沢山のメニューです。桜の花の満開の下、フレッシュな職員たちの今後にご期待ください。

法人本部 人事労務マネージャー 井上智成